松戸市協働のまちづくり協議会（第２回）

≪日　時≫　　令和５年５月２７日（土）１０時～１６時５０分
≪場　所≫　　松戸市役所　議会棟３階　第２会議室、特別委員会室
≪委　員≫　　犬塚　裕雅　会長、杉浦　利彦　副会長、牧野　昌子　委員、
小川　早苗　委員、佐藤　秀樹　委員、齊藤　典子　委員、
田中　勝規　委員
（欠席）坂野　喜隆　委員、神谷　明宏　委員
≪傍聴者≫３名

１　開　会
※欠席者報告・委員定数確認、配布資料確認、傍聴許可確認

２　協働のまちづくり協議会　会長挨拶

３　スケジュール説明
・事務局より説明。

４　議題
・事業報告および質疑応答（１９事業）

（1）
事業名：発達障害・不登校等の親の会事業（スタート助成）
団体名：あんだんて
委　　員：おしゃべり会を開催するために、ちょうどいい人数はどのぐらいか。
団　　体：4 名ぐらいが盛り上がりやすい。1 名だと話しづらいという方や、少ない方がプライバシーを気にせずしっかり話すことができるという方もいた。
委　　員：少ない人数の中でも運営をしているが、今後、スタッフを充実させるために具体的に考えていることはあるか。
団　　体：全体へ声掛けをしている。お手伝いや先輩ママとして来てもらうことをお願いしている。
委　　員：参加しやすい関係づくりを心掛けていて、講座についてもハードルがないように、うまく工夫されているなと感じた。実施することができなかったスタッフの研修はどのような研修会を考えていたか。今後どのようにスタッフ育成をしていきたいか。
団　　体：千葉市のメンタル講座を予定していた。2 年ごとの開催講座であり、令和 4 年度は開催されなかった。発達障害のお母さんは低年齢児のお母さんが多く、頼みにくい現状がある。不登校児のお母さんは年齢が上がってはくるが、発達障害も持ち合わ

せているお母さんが多いため、お願いレベルの声掛けをしている。

委　　員：活動を始めてから 10 年が経ち、今回助成を受けたことによって、できてよかったことは何か。

団　　体：現在は知識量や社会全体の認識も変わってきており、お母さん方にも明るい方が多い。今は以前と比べ、色々な道もあるが不安を感じることもあるため、先輩ママたちが大丈夫といえるような会になっていくとよいと思う。

委　　員：不登校は特別なことではなくて多様性の一つというように、皆さんの意識や受け止め方が変わってくるとよいと思う。松戸市では幼稚園から高校まで、不登校などの情報をつなげていくという制度があるか。

団　　体：学校内ではあると思う。制度としてはつながっているが、実態としては上手くつながらない部分があると保護者から聞く。

委　　員：講演会の中で、アドラー心理学を教材のテーマに選んだ理由を知りたい。

団　　体：アドラー心理学は不登校のお母さんたちにとってとても重要で、親と子の課題が分離するというところで、聞いてほしいと思い、教材の一つとした。

（２）

事業名：日本語を母国語としない子どものための学習支援事業（協働事業）

団体名：認定ＮＰＯ法人外国人の子どものための勉強会

担当課：国際推進課

委　　員：活動がさらに発展していると感じた。教育機関との連携について、学校への個別訪問をしようとしたが、教育委員会から協力を得られなかった理由は何か。

担 当 課：学校の中にもプライバシーがあり、どの生徒が支援を必要としているのかというプライバシーの問題により、協力が得られなかった。教育委員会による学校生活での支援は行われているが、日常生活での支援はより必要だと思う。

団　　体：他の自治体は、日本に来たばかりの外国人に教えているという自治体もある。

委　　員：市がその橋渡しをできればよかったと思う。

委　　員：1 校の訪問を行ったのか。

団　　体：外国人の子供たちが多くいる学校を選んで、1 校だけ訪問をした。それ以外は教育委員会との兼ね合いで実施できなかった。

委　　員：スタッフが 61 名おり、参加者の 7 名がスタッフとなって加わったのはとても良いことだと思う。61 名全員が活動しているのか。

団　　体：スタッフ全員が教えているというわけではない。中には一定の期間参加できないという者もいる。

委　　員：参加人数も支援するスタッフも多く、素晴らしい活動をされていると思う。オンラインでは、どのように行っているのか。

団　　体：オンライン学習を進めるにあたって、相手側の生徒さんの受け入れ態勢ができているのかが大事である。情報端末は持っていても、Wi-Fi を全ての家庭でそろえるのは難しい問題であった。

委　　員：報告書で、当団体の学生には言葉の障壁により学習機会の喪失や、不登校・非行に走ることは見られないとある。団体が一つのセーフティーネットになっており、今後外部から多くの人が入ってくるときに良いのではないかと思う。担当課が団体と組むことで得られることや期待されることは何か。

担 当 課：当初期待していた成果が上がったと感じている。今後、ますます外国人が増えていくだろうと考えられる。学校での対応に限界がある中で、団体の役割が大きくなっていくだろうと思う。

（３）

事業名：地域まるごとで孤育てを予防する連携システム事業（協働事業）

団体名：まつどでつながるプロジェクト運営協議会

担当課：子ども政策課

担 当 課：民間の団体と話す機会はあまりないため、円卓会議で様々な関係課や団体と情報交換ができ、つながることができたのが１年目の成果だと思う。

委　　員：様々な民間や子育てをしている人が、深くつながりを作るスタートになったと思う。市民サポーター養成講座の人数について、次への活躍の場を示すことができればよりつながっていくと思うが、どうか。

団　　体：専門家を育てることが目的ではなく、松戸の子育てで何が起きているのかという現状を知っている人を増やしていきたいと考えている。より具体的に動きたいという方には、応援隊という活動がある。まずは仕組みを知ってもらいたい、隙間がどこにあるのか、つなげていきたいと思っている。

委　　員：円卓会議の詳しい状況について知りたい。全体で話すのか、グループに分かれて話し合っているのか。テーブルにスタッフはつくのか。

団　　体：一人ひとりの関心や悩みは違うため、統一したテーマは設けていない。担当者として悩んでいることを話してもらっている。テーブルごとにファシリテーターを置き、取りまとめたものをレポートとしてそれぞれに共有している。

委　　員：グループ分けはどうしているか。色々な業種の人が交わるとよいと思う。

団　　体：団体側で工夫している。

委　　員：市民サポーターについて、どういう条件でなれるのか、修了証などはあるのか。

団　　体：まだ模索中である。修了条件も含めて、これから工夫をしていきたい。

委　　員：修了生の活躍の場はどこになるのか。

団　　体：市で設ける事業で募集をしたい。既に活動しているもののお手伝いや円卓会議に修了生を呼び、話すことも考えている。また、既存の輪に入るだけでなく、新しく生み出していくことも大事だと考えている。

委　　員：今後の事業展開の中で、今後連携が必要になるところは具体的にはどのようなものか。

担 当 課：会議の中で出た課題については、それぞれの担当課で理解している。担当課で事業に反映できないか考えてもらいたいし、今後発展していくとよいと思う。

団　　体：乳幼児編で、虐待予防などの施策を強化していきたいと行政からも言われた。行政の新規事業として動いているものもある。円卓会議の内容がどの程度反映されるかはわからないが、円卓会議で事業担当者に話をしてもらうというのも良いかもしれないと考えている。

委　　員：まだ始まったばかりで、地域に定着していくには少し時間がかかる。松戸のモデルとして育てていってもらいたい。

（４）

事業名：梨香台団地付近の多世代交流型居場所事業（スタート助成）

団体名：梨っこ食堂

委　　員：様々な協力や寄付があったと思うが、それについて詳しく知りたい。５人のメンバーだけで行うとなると、今後大変になるのでは。

団　　体：食材の調達（寄付）については、加盟している東葛のフードバンクや松戸子ども食堂の会を通しての毎月お米の支援、８月以降は毎週企業から野菜の提供を受けられた。まずは支援が必要な家庭に配布して、余ったものを子どもたちと調理した。スタッフは５人だが、コロナ禍でもあったため、子どもたちと接していたのは２名のみ。メンバーの他に、管理栄養士や個人的なつながりの中でサポートを受けた。小さな子供が高齢者にスマホの使い方を教えるなど、相互的なふれあいが行われていた。顔見知りの関係になり、災害時にも支えあえるようになるとよいと思う。

委　　員：５人のスタッフでよくやっていたと思う。防災の意識もすごく大事だと感じた。食堂の一般的な流れを知りたい。

団　　体：朝の１０時～１７時まで、集会所や市民センターを借りて開催していた。Line のグループで事前に食材の余りを知らせておき、調理をしたい子は調理を行い、そうでない子供は勉強や遊んでいた。ご飯を食べて、１４時ぐらいまでゆっくりしていた。スタッフが季節のイベントを考えて行うこともある。事務局を開放しており、梨っこ食堂を開催していないときに子どもたちが集まることもある。

委　　員：人数の把握はどのようにやっているか。

団　　体：当日に人数を見て、大体のお米の量を決めるが、予想よりも多くなった場合には、防災食を使用した。

（５）

料理教室を通じた父親の意識改革事業（協働事業）

団体名：MAISON IZARRA Oyatsu labo ＊ T naturel

メゾンイザラおやつラボ＊テ　ナチュレル

担当課：男女共同参画課

委　　員：２年目の協働事業だが、担当課目線で得られた点、足りなかった点は。

担 当 課：参加者を募る点が課題であったが、協働事業を行ったことで集められた。最初は奥さんのエプロンで参加していた方が、自分のエプロンをつけて参加していたとき、

家庭でも実践していて、成果が得られたと感じた。今後もおやつラボが継続できるように取り組んでいきたい。

委　　員：奥さんの見学があってもよいかもしれない。有料にしても参加者集まるのでは。

担 当 課：奥さんは会場に一緒に来て、作業中は外に出ているということはあった。お母さんがいると子供がどうしてもお母さんのほうに行ってしまうことがあり、父親が主体となってほしいという主旨から、父親のみの参加としている。

団　　体：今年度、初めて有料（1,000 円）で行う予定。有料にしても定員を超える申し込みがあった。

委　　員：予算の半分が材料費となっており、何回も実施するには 1,000 円だと難しく、金銭面の対策が必要なのでは。

担 当 課：これまでコロナによる感染症対策で募集人数が少なかったが、規制緩和により参加数を増やすことで、１組あたりの単価を減らす予定。長く継続していくためにも、検討していきたい。

委　　員：リピーターの制限はどうなっているか。

担 当 課：現状２割程度がリピーターであり、許容範囲だと思っている。

委　　員：担当課としての事業展開についてどのようにお考えか。

担 当 課：父親同士のサークル等につなげられているので、今後もつなげていきたい。パパサークルの紹介などもしている。

委　　員：アンケートは父親と子どもにとったアンケートか。

担 当 課：おおよそ父親が回答したもの。フリーの欄については子どもの意見も入っていることがある。

委　　員：お菓子はつかみの良いコンテンツであり、この事業を通じて親子関係が太くなってくればいいなと思う。今後も頑張ってほしい。

（６）

事業名：松戸のイメージ向上のためのコミュニケーション事業（協働事業）

団体名：まつどのこもりかた。編集部

担当課：広報広聴課シティプロモーション担当室

委　　員：事業が修了してしまうことは非常に残念。行政らしくない内容で、すごく効果があったのではと思う。市のサイト内で記事を残すとのことだが、この先どのような対応をしていくのか。

担 当 課：インスタグラムやツイッターのフォロワー数について、目標には達しないまでも増加したため、急にサイトを閉鎖してしまうと影響は大きい。取り上げた店や関係者から非常に良い意見が出ているため、松戸市のホームページに移行し、しばらくは閲覧できるようにする。今年度から松戸市のホームページで公開している。

委　　員：事業の成果として、ツイッターやインスタグラムのフォロワー数の数字で見える部分もあると思うが、記事を見て来店したなどの反響や成果は当事者にとってどうだったか。

団　　体：売り上げが上がったなどの分かりやすい成果はなく、フォロワー数 1,000 人程度のアカウントから発信することで売り上げを伸ばすのは難しいと当初より想定していたため、その点については想定の範囲内だった。お気に入りのお店を取り上げてもらったなどのコメントやお店のファンの人からのリアクションがあり、コミュニケーションを取ることができた。モデルの人がお店を気に入って、後日訪ねたこともあった。

委　　員：これまでとは違う切り口の情報発信ができたことは、とても価値のある取り組みだったと思う。この経験を基にして、今後は市として松戸市の魅力を多様な形で発信し続けてほしい。

（７）

事業名：町会・自治会の活動をＰＲして親しみをもってもらおう事業（協働事業）

団体名：できる街プロジェクト

担当課：市民自治課

委　　員：一昨年の付帯意見も取り入れられていた。具体的なアンケート結果を教えてほしい。

担 当 課：町会・自治会の活動を漫画から知ることができたという声や見た目がシンプルで分かりやすいといったものがあった。この漫画で町会加入への心理的ハードルが下がったという効果が大きいと思っている。

委　　員：漫画やアニメが非常に分かりやすかった。今後いかに多くの人に見てもらうことが大切だと思うが、その点はどのように考えているか。

担 当 課：令和４年度は町会の掲示板や公共施設にポスターを配架したが、若い世代は SNS を多用するため、今後はＳＮＳやホームページを活用して発信していきたい。

委　　員：町会や自治会のイベントを増やしてほしいというのがアンケート結果にある。町内会に入ってよかったと思ってもらえるように、子どもの巻き込みを意識させるような活動に結び付けていけるとよいと思う。

団　　体：高校生が参加している自治会があり、その高校生が都内へ行くよりも、近くで活動しているほうが便利といっていた。その「近さ」というメリットに気づかされた。

委　　員：今後の事業展開として小学校への配布は、どのようにするのか。

担 当 課：配布についてはあくまで予算化を視野に入れている程度。検討しているのは社会科を学び始めた小学校３年生を対象に、身近な社会組織である町会・自治会を勉強してもらえたらと思っている。

委　　員：加入率がすぐに上がるというのは難しいと思うが、減らさないという認識で継続していくと、結果につながると思う。加入率は他市でも困難を極めており、現状維持でも成果ととらえてほしい。

（８）

事業名：「食」と「コミュニケーション」によるつながりづくり事業（ステップアップ助成）

団体名：生きづらわーほりプロジェクト

委　　員：運営体制面について、２０人で動かしているような感じなのか。
団　　体：実際に携わっているのは、６人程度。中心となるのは３人ぐらい。
委　　員：今後どのように運営面を強化するのか。どうやって積極的にかかわってもらうようにするのか。
団　　体：昨年は手が回らなくなってきており、担当制で仕事をしていた。メンバーの募集をしていきたい。
委　　員：他市の関連する事業があれば教えてください。
団　　体：東京都内では多様な場づくりとして、読書会やお菓子作りなどの色々なタイプの場を作る活動がある。
委　　員：引きこもりの方に参加してもらうためのその工夫を聞きたい。話をする際は、スタッフが入って話をするのか。
団　　体：引きこもりの方が参加するまでは、家にいながらのサポートをしている。オンラインで情報提供するところから、興味を持ってもらい、現地に行きたいと思ってもらえるように働きかけている。伝わりミニの参加者は場慣れしている人もいるし、スタッフがともに２～３時間話す。リピーターの方もいる。
委　　員：参加している人の意見や考え方があれば教えてほしい。目に見える形での成果はあったか。
団　　体：今回実施した中で、ボイストレーニングやコミュニケーション講座がよかったという声があった。就労移行支援に参加したという話を聞いた。
委　　員：息長く続けていくことが大切であり、他の団体とのつながりなどが大事になってくると思うが、他の団体とはどのようなものをイメージしているか。
団　　体：引きこもり関連団体は協力したいが、農業的な活動や協働事業の団体、音楽、料理なども考えている。
委　　員：松戸市内に色々なものが増えれば、自分の興味関心の分野が見つかるというよい形になると思う。
委　　員：リピーターの方が多いというのが分かった。千葉市や浦安市は引きこもり相談センターがあるため、連携を検討してみるのもよいと思う。

（９）
事業名：「まつどの介護」プロモーション事業（協働事業）
団体名：特定非営利活動法人　SmileResource
担当課：介護保険課
委　　員：視聴してもらうための工夫はあるか。例えば松戸市のホームページからこの動画に飛べるような流れになっているか。
担 当 課：市のホームページ「まつど DE いきいき高齢者」というサイトで動画、冊子等をまとめて紹介するページがあり、そこでリンクを掲載している。
委　　員：完成した動画を上映会で見せた時の感想、福祉の世界をどのように感じたか等のデータがあれば教えてほしい。

団　　体：アンケートをとったことはないが、親が介護の仕事をしている学生が多く、親の仕事を知ることができたという感想があった。

委　　員：河原塚中学校、根木内中学校で上映会をしているが、感想や反響があれば教えてもらいたい。また、学校に上映できたきっかけを教えてほしい。

団　　体：自分の親の仕事を知るきっかけとなった、高校に専門があることが分かったという感想があった。学校の受け入れについては直接関与しておらず、知り合いの団体が行っていた事業の一環として団体スタッフが個人として登壇し、介護福祉士としての自分の仕事を紹介する際、動画を上映した。

委　　員：グループホーム動画の視聴数が伸びていることについて、どのように捉えているか。

団　　体：様々要因があると思うが、対象となった事業所が大きな企業ということが要因の一つだと思う。そこから各地に展開したのではないか。

委　　員：これからは取材先からも発信してもらうのも良い。

委　　員：入居者の家族の方に発信してもらうようになっていくと良いかなとも思う。
外国人の介護スタッフの紹介動画を作成したことについて、介護保険課の目線として、その意味合いを教えてほしい。

担 当 課：外国人スタッフが近年増えている中で、利用者の外国人スタッフへの抵抗感をなくすという意味や、外国の方の頑張っている姿を見てほしいという点もあり企画した。

委　　員：こうして裏で働く人のことを知るきっかけになっていると思う。

（１０）

事業名：冒険山開放に伴う見守り事業（ステップアップ助成）

団体名：冒険山開放委員会

委　　員：もともと冒険山を開放するという趣旨で始まったと思うが、場所を変えて、浅間公園にするということは、原点を変えることになるのか、拡張するということか、どのような考えか確認したい。

団　　体：多くの子どもが集まる浅間公園に出張して認知をしてもらいたいという考え。定期的に行うことではない。小金北小に加え、不定期で浅間公園でも開催したい。

委　　員：保護者の参加もあるそうだが、火起こしが危ないという反応はどのようなものか。

団　　体：基本的な活動の考え方として、弁当とけがは自分持ちというスタンス。怖がっていては仕事をやりきれないため、基本的な活動の考え方を記したチラシを配っている。火おこしについては一人ひとり丁寧に対応している。最近は小学校の授業でもマッチを使用しないらしく、マッチに火をつけると投げつける子もいた。災害等が発生した時のために、経験させたいと思う。

委　　員：オンラインセミナーの目的、狙い、対象はどのようなものか。

団　　体：親御さんが子どもを連れてくるため、親御さんが今何に悩んでいるのかを把握した上で、自分たちの活動を啓蒙し、子どもの参加につなげたい。

委　　員：今回スポーツ系団体を集めていたが、市内の子育て関係団体にも連絡していたら、もう少しうまく伝わっていたのかなと思う。

団　　体：殿平賀小学校、小金北小学校の学童クラブに配布した。地元スポーツチームに頼っているが、今後は子育て関係団体にも声をかけていく必要があると思っている。
委　　員：オンラインといえ、平日１５時開催で参加者４人と少ない結果となったのは、昨年と工夫が見られず残念。対象者を含めて、きちんと取り組んでいただきたい。
団　　体：指摘の通り。もう一度チャレンジしていきたい。
委　　員：昔の遊びで取り組んでいただいている。子どもの感想を聞かせてほしい。
団　　体：おはじきは追い出すだけの単純な遊びだが、やったことのない子どもたちにとっては新鮮な経験だったと思っている。

（１１）
事業名：金ケ作歴史散策まっぷプロジェクト事業（スタート助成）
団体名：金ケ作歴史同好会
委　　員：故郷を語ろう会への参画とあるが、どういう会か。
団　　体：金ケ作歴史同好会の事業を進めるうえで、連携した八柱エリアの団体。
故郷を語ろう会は歴史的なことをみんなで語る会として創られた団体であり、金ケ作門前町会の人たちが自分のふるさとについて語り合うことが主旨。その中で陣屋や金ケ作についてもっと知りたいという意見があり、金ケ作歴史同好会が参画することとなった。
委　　員：故郷を語ろう会には結構参加するのか。
団　　体：はい。毎月第２、３土曜日にやっている。講師として参加することもある。
委　　員：散歩コースだけではなく、歴史的なことがきちんと書かれていることに驚いた。今後はこれを基にどんな活動を展望しているか。
団　　体：今回採択されて、高額のパソコンを購入したが、手元に届いたのが遅く、活用できなかった。写真入り地図の第２版を作り、緑の豊かさも含めて、金ケ作周辺の魅力が伝わるものを表現したいと考えている。また、緑と花のフェスティバルにパネルを出展し、かなり好評だった。今度は博物館の友の会と連携して、このコースを歩きたい。マップができあがったことで話が進みだしたと感じている。
委　　員：会として、他になにかマップの活用方法はあるか。
団　　体：活用方法というよりは、教育団体、教育現場もそうだが、もっと相手側から利用してほしい、こちらと繋がってほしいと思っている。こちらは歓迎しているので、シェイクハンドを十分にしていきたい。

（１２）
事業名：ぶどうの家 ふれあいコンサート・イベント事業（スタート助成）
団体名：特定非営利活動法人　葡萄の家
委　　員：今後ふれあいコンサートを続けていく中で、選択する音楽は継続してバロック音楽なのか。それとも変更していく余地はあるのか。
団　　体：他の団体では、古くから形が変わらずに親しみのあるリコーダーを使って、参加型

のコンサートをしているところもあり、そういったものも検討している。ただし、古楽器にはこだわっていきたい。

委　　員：中止になったおもしろ実習教室についてネタはどのようなことを考えていたのか、

団　　体：牛乳パックを使用した工作。

委　　員：この教室の狙いは何か。１人でやるのか、チームでやるのか。

団　　体：１つのテーブルに約５人、そこに１人の先生がつく、親御さんも子どもと同様一つ作る。一緒に作成していく中で、複雑で難しい作業でも、障害のある人も健常の人と同様に作れることを知ってもらいたい。

委　　員：チームを組んで作成することで、障害のある子どもも無い子どもも、お互いに役割分担を確認して、連帯感、一体感といった場の雰囲気を得ること。そして将来的に子どもたちが障害の有無に関係なく、直感的にお互いが一緒になってやっていけると思わせる、そういった場の提供が狙いなのではないか。

団　　体：その通り。それも狙いの一つ。

委　　員：アンケート結果の内容は障害のある方に聞いたものか。

団　　体：一般参加者のアンケート。

委　　員：障害のある方はどうだったか。

団　　体：知的障害のある方が多いので、「面白かった」で終わってしまう。ただ、「演奏者の動きは違うのに音はピタッとあっている」とアスペルガーの子が言っていた。

委　　員：施設の利用者も参加しているということか。

団　　体：そういう人が参加できるようにしている。

委　　員：８４人のうちの１０人くらいは障害のある方ということだが、あまり利用者の方は多くない。

団　　体：支援学校に手紙の送付と電話をしたが、なかなか理解が得られず、参加していただいていない。課題として考えている。

（１３）

事業名：四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業（スタート助成）

団体名：小金原みんなでわくわくする会

委　　員：町会自治会で SDGs の勉強会をするという先端をいく活動かと思う。若い世代がどのように自治会等の活動に参加してもらうのか、何か考えはあるか。

団　　体：義務的な参画は難しく続かない。面白いことがないといけないと思っている。
これまではイベントは決まった世代で分かれてしまっていたので、多世代が交わるイベントや音楽会等を検討している。

委　　員：４回実施された SDGs 勉強会では、毎回別の人が参加していたのか。

団　　体：同じ方もいれば、違う方もいる。

委　　員：どのような世代が多いか。

団　　体：一番若い方が４０代前半ほど。

委　　員：事業名称に四世代とあり、四世代が交流できる音楽会を企画しているが、どのよう

なものを考えているか、具体的な案はあるか。

団　　体：１００歳時代ということで、四世代が交流しながら生活することを考えている。その中で音楽は世代を超えると考えている。地元の音楽活動をしているボランティア等を助けてもらいながら実施しようと考えている。

委　　員：ごみ箱アンケート調査を行おうと考えたきっかけは。また、バーベキュー団体支援とは、直接の団体活動ではなく、他の団体が行うバーベキュー大会を支援したということか。最後に、報償費が一部対象外となったのはなぜか。

団　　体：まず報償費について、当初２時間で謝礼を払うことを考えていたが、実際２時間を超えることがあったことから、報償費を増やしたところ、予算をオーバーしてしまったため、自己負担とした。次にごみ関係については、ごみ捨場が汚く、もう少しきれいにしたいという思いが発端で、最終的には仕分けを通じたリサイクルや、生ごみの積極的活用等の活動を町会内に取り込めるようにしたい。バーベキューについては、コロナの懸念がある中で、交流を促すにはどうすればよいか、というところをサポートした。

委　　員：町会行事の支援ということで良いか。

団　　体：大きく言えばその通り。

委　　員：ご自身の住む町会を活性化しようという取り組みだと思うが、実施した結果として、役員の反応を教えてほしい。

団　　体：皆さん悩んでいる。町委　　員も７０歳を超えているため、現状のままで今後町会活動は継続できるのか、ということで不安に思っている。そこで今回のような新しい試みは喜んでもらえていると思う。

委　　員：次の世代に向けての準備ということか。

団　　体：その通り。

（１４）

事業名：みんなで育て、みんなでつくる　沿道での食べられる景観事業（ステップアップ助成）

団体名：エディブルウェイプロジェクトチーム

委　　員：五香地区に住んでいるが、商店街等他の場所にもこういったものがあると良いかと思った。

団　　体：松戸地区の展開をほかのエリアに広げることも考えている。

委　　員：新しい会員が増えたや地域コミュニティの活性化など、住民同士の触れ合いが増えたという話はあるか。

団　　体：最近家が新しく５軒ほど建ち、若い世代が入居した。その近所に住んでいて活動している方が声かけをしてくれたことで参加され、新しい世代にもつながりができていると感じる。参加してもらうことで会話が生まれることはよかったと思う。

委　　員：活動の中で困ったことや失敗したことはあったか。

団　　体：イチゴやトマトなどの目立つ実が生るものはカラスとかにとられて悲しいということがあった。また、『触りたい人がいたら声をかけてね』といったプレートを立て

ることで、新しいコミュニケーションにつながることもあったが、コミュニケーションがないまま、実がなくなるということは未だあり、課題に感じている。

委　　員：マンションの実例は今回が初めてだと思うが、どうだったか。

団　　体：マンションのベランダで作りたい方へのニーズを見込み、サポーター会員というものを作ったが申し込みはなかった。しかし今年の活動で始めた『苗部』という活動で初めて、マンション会員ができている。マンション会員の方にはSNS等で発信してもらっている。

委　　員：自走できる活動を進める中で、どれくらいの人が集まれば、自家生産で実施できるものか、わかるか。

団　　体：現在『苗部』で６人、交換会で持ってくる方が４、５人いて、計１０～１５人の方々がそれぞれもう少しずつ育ててもらえれば、自走できるのではないかと考えている。

（１５）

事業名：親子で安心、子ども達が楽しく育つ居場所づくり事業（ステップアップ助成）

団体名：なないろのもり

委　　員：今後どのように地域へ働きかけていくのか、今後の展望があれば教えてほしい。

団　　体：コロナ禍でも何とか活動してきたこともあり、協賛してくれる個人、団体、店が増えた。そのため、今では地域の人からこの活動を続けてほしいと頼まれている状況だが、我々の体力次第であり、課題に捉えている。

委　　員：イベントで参加費は徴収しているのか。

団　　体：入場料はないが、材料費や出展料等は徴収している。

委　　員：スタッフを増やす工夫について、どのように考えているか。

団　　体：基本は４人だが、イベントごとに協力者は増えている。しかしコア部分に関してはしばらく４人でやるのかなと感じている。

委　　員：場所の確保について、空き家対策の市のもので活用してみてはどうか。

団　　体：検討する。

委　　員：この助成金は補助金と違い、成ることを助けるお金であり、次の新しいことをするステップをして考えている。もし今後メンバーが変わらないようであれば、５年後に終わるという選択も考えて、次につなぐことを考えることもあるかもしれない。団体の終活ということも考えておけば、少し気晴らしにもなるのではないかとも思う。

（１６）

事業名：松戸市ご当地漫画＆アニメ制作事業（スタート助成）

団体名：超普通スタジオ

委　　員：この動画のターゲットはどのような人か。また、どのように検索すればヒットするか。「松戸の魅力」と検索するのではヒットしなかった。

団　　体：松戸の外の人に興味を持ってもらいたい。

また、『松戸　アニメ』だと出てくるが、『松戸　魅力』だと確かに出てこない。

委　　員：『アニメ』で検索する人は少ないと思うので、『魅力』『面白い』などで検索した時に出るとよいと思う。

団　　体：ハッシュタグに入れたいと思う。

委　　員：制作する中で苦労した点はあるか。

団　　体：取材して、脚本を作った後にＮＧとなったことが２件あり、辛かった。また、魅力を聞いた時にネガティブワードが多くあり、書きづらい部分があった。

委　　員：松戸の面白いところを発信して外部の人に見てもらうという点から、「多くの場所」に取材しているイメージがある。祭りや地域の行事等の「人が賑わっている」という観点での魅力発掘は考えているか。

団　　体：祭りはいいと思ったが、コロナ禍で人が集まることについて懸念があったので、今回は場所、スポットに絞って作成した。今後の作品では検討している。

委　　員：ネガティブな部分は団体内で検討したのか。隠さなくても良いかなと思った。

団　　体：団体内で検討した結果、やめることとした。

委　　員：意図しない方向で炎上してしまうのが怖いところ。他の地域でも活動していたと思うが、松戸で２年活動してみてどうだったか。

団　　体：柏と鎌ヶ谷との中間のイメージ。鎌ヶ谷は放置気味だがネタが少なく、柏はネタは多いが、団体間の関係性が少し希薄なところがある。それぞれ個性で魅力だと思う。

（１７）

事業名：ときわだいらオープンアトリエ事業（ステップアップ助成）

団体名：特定非営利活動法人ディープデモクラシー・センター

委　　員：オープンアトリエへの参加は１回か、リピートしているのか。また、１回の講座で行うのか、数回の講座を通して１つのものを作るのか。様子を教えてほしい。

団　　体：基本的には連続講座だが、１回のみの参加ができるようにしている。そのため、その回のものはその日に作っているが、最後は各回の成果物を壁に貼り付け、１つの作品にしている。

委　　員：いろんな属性の人が参加したとあるが、意識してそのような周知をしたのか。

団　　体：意識して周知した。Facebook や web サイト、声かけによって来た人のほか、新しい試みで市民センターにチラシを配架したことにより、新しい層の参加があった。

委　　員：県外からの参加者が多いとあったが、市民は何人か。

団　　体：養成講座はオープンアトリエを運営する専門的な講座であったため、市内は２人だった。そのほかには同じように活動している社会福祉法人の人の参加があり、ネットワークに繋がっている。

委　　員：参加人数は半数以下となっている。内容は有意義だったかもしれないが、広報計画や、計画的に事業を進めることは必要だと考える。チラシについて、どのくらいの枚数をどのように配ったのか。

団　　体：印刷枚数は 2,000 枚程度だが、当団体が何者なのか、という点から参加者の心理的

ハードルが高かったことがわかった。市内全域ではなく、常盤平で活動するNPOであることや活動内容をより分かりやすく見えるようにする必要性を、事業を実施して感じた。今回の活動を通して、人数は少なかったがお互いに繋がりを作れたことは大きな成果だと思う。

（１８）

事業名：松戸市民向けＳＤＧｓ普及啓発促進事業（スタート助成）

団体名：まつど地域活躍塾つながりの会

委　　員：市民の理解が不足している。SDGsの視点を取り入れるとあるが、どのように取り入れるのか、工夫はあるか。

団　　体：日常生活の中の行動を取り上げて、アクションプランを作成していて、自分の考え、行動をまずシートに書いてもらい、その行動がどの目標に該当するかという作業を行っている。その結果自分の行動がSDGsのどの目標に連動しているのか自覚することができ、それがSDGsの視点を促すきっかけになると考えて講座に取り入れている。

委　　員：「松戸版SDGs」とはどのようなものか。

団　　体：現状構想のみだが、松戸を象徴する歴史や文化をSDGsの目標と繋げられないか、クイズやカードにして親しみを持たすことが１つ。また松戸で行われている団体活動をSDGsに結び付けて、その団体にスタディツアーするといった形で、取り組めたらと考えている。また、SDGsとのつながりをビジュアル化できればと考えている。ホームページのような形で団体活動とSDGsの繋がりを紹介することも考えている。

委　　員：助成事業を受けるときに、市と情報を共有して事業を進めるよう付帯意見をつけている。教材開発ができなかったということで、共有はあったのか。また、進められたことはあったのか。

団　　体：共有していたが、形としては作成できなかった。今年度実施する協働事業で、構想の内容を教材に生かしていきたい。

（１９）

事業名：松戸市民も命を大切にしてみます事業（ステップアップ助成）

団体名：松戸地域猫スタートサポート

委　　員：ドキュメンタリー映画の記載が見受けられなかったので、詳細を教えてほしい。

団　　体：既存の相談会に付け加え、１部、２部と分けて実施した。
関心が多くあったことと、１度すでに参加した人のリピートもあり、参加者同士の交流にもつながった。

委　　員：だれが制作した映画か。

団　　体：地域猫DVDを作成した会社の関連会社が制作している。

委　　員：今後の活動計画はどのように考えているか。

団　　体：現在は準備中。できれば６月、７月には月１回開催したい。

委　　員：北松戸町会とのこれからのつながりはどのようになっているのか。

団　　体：町会で予算がついたので、モデルケースとして進めていき、住民の全員で活動できるということを伝えていきたい。また、町会の予算は避妊手術に使用されると思う。最初は少ない予算のため年に２、３頭の手術となるが、実施することで町内の餌やり問題などで説明ができるなど、他にも様々な社会問題を、地域猫を通じて町会の皆さんに知っていただけるのかなと思っている。

委　　員：　予算化できたことは大きな実績だと思う。この取り組みが町会だけでなく、他組織へ広がっていくような好循環となることを、長期的視点で期待している。

会　　長：総評

５　閉会